

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
国語総合	1	看護科 コース	4	国語科

使用教科書等	出版社
高等学校 標準 国語総合	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	様々な文章に親しみ、読解力や表現力を養う。 漢字の読み書き、ことば及び古典鑑賞の基礎知識を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	漢字の読み書き、古典の基礎知識、読解力、表現力を評価する。	授業に取り組む姿勢、授業中の発表、提出物、確認テスト等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	随想(一)「世界は謎に満ちている」 手塚 治虫 小説(一)「羅生門」 芥川 龍之介 【中間考査】
	5・6	古文に親しむ「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語) 漢文入門「訓読に親しむ」(一)(二)(三) 【期末考査】
第2学期	7・9	故事成語「五十歩百歩」(孟子) 小説(一)「とんかつ」 詩「I was born」 吉野 弘 【中間考査】
	10・11	故事成語「蛇足」(戦国策) 評論(一)「水の東西」 山崎 正和 【期末考査】
第3学期	12・1	小説(二)「卒業ホームラン」 重松 清 「筒井筒」(伊勢物語) 小論文指導
	2・3	評論(三)「イースター島になぜ森がないのか」 短歌と俳句「清水へ」「手毬歌」 【期末考査】 まとめ

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	看護科 コース	4	国語科

使用教科書等	出版社
標準現代文B	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の様々な作品に接し、読解力、思考力、表現力を養う。 ・漢字、ことばの学習を通して、語句の定着を図る。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の流れを理解し、現代文の鑑賞力を高める。 ・基本的な漢字の読み書きができるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字書取の小テスト ・課題の提出 ・授業に取り組む姿勢(他者との協働)
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	調律師のるみ子さん わたしはあなただったかもしれない
	5	中間考査
	5・6	「新しい地球観」 毛利衛 「永訣の朝」 宮沢賢治 【期末考査】
第2学期	7	「情けは人の…」 俵万智
	9	「相棒」 内海隆一郎
	10・11	【中間考査】 「サイン」 井上ひさし 「名所絵はがきの東西」 高階 秀爾 【期末考査】
第3学期	12	こころ 夏目漱石
	1	
	2・3	【期末考査】 問題演習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	3	看護科 コース	4	国語科

使用教科書等	出版社
改訂版 標準現代文B	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の様々な作品に接し、読解力、思考力を養う。 ・漢字、ことばの学習を通して、語句の定着を図る
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の理解 ・漢字、語句の習得 ・文学史の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字書取の小テスト ・ノート、課題の提出 ・授業に取り組む姿勢
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	第2部 随想「ワスレナグサ」星野道夫 【中間考査】
	5 ・ 6	随想「食と想像力」辺見庸 詩「食事」高階紀一 他
第2学期	7 ・ 9	小説「山月記」中島敦 評論「記憶のゆがみ」高橋雅延 【中間考査】
	10 ・ 11	小説「ひよこの眼」山田詠美 評論「鏡としての他者」榎本博明 【期末考査】
第3学期	12 ・ 1	小説「山椒魚」 「折々のうた」大岡信 【期末考査】
	2 ・ 3	まとめ学習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	1	看護科 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
現代社会	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、基礎的な知識の定着を図る。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学習した概念や理論を理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。また、現代社会において解決しなければならない具体的な諸課題を、政治と経済を関連づけて考えさせるように記述式の設問も設定する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1部 わたしたちの生きる社会 ①地球環境と資源・エネルギー ②科学技術の発達と生命 ③情報化の進展と生活 【中間考査】
	5・6	第2章 日本国憲法と民主政治 1節 民主政治とは 2節 日本国憲法の基本原理 【期末考査】
第2学期	7・9	3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題 第3章 個人の尊重と法の支配 1節 個人の尊重と法の支配 【中間考査】
	10・11	第4章 現代の経済と国民福祉 1節 経済のしくみ 2節 変化する日本経済 【期末考査】
第3学期	12・1	3節 豊かな生活の実現 第5章 国際社会と人類の課題 1節 国際経済のしくみと動向 2節 国際政治のしくみと動向
	2・3	3節 国際社会の現状と課題 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史A	2	看護科 科	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
日本史A 現代からの歴史	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代史を理解し、今日の日本の基盤を考察する。 ・裏話やエピソードを多く取り入れ興味付けする。 ・出来事の背景を考えさせる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度・ノート・課題等の提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 国際環境の変化と明治維新 1, 19世紀世界の動向と日本 2, 開国と倒幕 【中間考査】
	5・6	3, 明治新政府の諸改革と社会変化 4, 明治初期の外交と反政府運動 【期末考査】
	7・9	第2章 近代国家の成立と国際関係の推移 1, 自由民権運動の展開 2, 立憲体制の成立 3, 日清戦争と国際関係 【中間考査】
	10・11	4, 日露戦争前後の世界と日本 第3章 両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 1, 帝国日本と第1次世界大戦 2, 政党政治と大衆文化 【期末考査】
第3学期	12・1	3, 軍国日本への道 4, 太平洋戦争と日本 【期末考査】
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史A	3	看護科 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
世界史A	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界史の展開を追いながら、それが現代社会にどのような影響を与え、どのような問題点を発生させたかといった歴史的思考力を養うことを主眼とする。また各地域の文化の多様性・複合性などにも触れながら歴史を大観的にとらえさせる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	基本的な歴史事項はもとより、1つ1つの事項の背景に何があるのかを問う。また単なる用語の理解にとどまらず、それぞれの単元の主題がきちんととらえることができているかどうかを確認する。 中間・期末考査を行う。	普段の授業態度・提出物等で評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1部 近・現代世界史の背景～諸地域世界とその交流～ 第1章 ユーラシアの諸地域世界 【中間考査】
	5・6	第1章 ユーラシアの諸地域世界 第2章 ユーラシアの交流圏 【期末考査】
第2学期	7・9	第2部 成熟するアジアと世界へ向かうヨーロッパ 第3章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ 【中間考査】
	10・11	第4章 太平洋世界の変容とその波及 第5章 産業化社会の拡大と成熟 【期末考査】
第3学期	12・1 2・3	第6章 アジア諸国の変貌と日本及び学年のまとめ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学 I	1	看護科 コース	3	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版 新編数学 I 改訂版 Study-Upノート 数学 I	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念や公式を十分に理解する。 問題集で計算力や応用力を高め、数学的な思考力や表現力を養う。 他者と対話しながら、協働して学習する姿勢を身に付ける。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。 各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	授業に取り組む姿勢や、家庭学習への取り組み姿勢を確認する。 授業態度、レポートやノートの提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 【中間考査】
	5 ・ 6	第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 【期末考査】
第2学期	7 ・ 9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 【中間考査】
	10 ・ 11	第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 【期末考査】
第3学期	12 ・ 1	第2節 三角形への応用
	2 ・ 3	第5章 データの分析 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	2	看護科 コース	3	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版新編数学 I, 改訂版新編数学A/ Study-Upノート数学 I, Study-Upノート数学A	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識と技能の習得を図り, いろいろな事象を数学的に考察する能力を養う。 ・自学自習の習慣を身につける。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期ごとに、学習内容の基本的事項について中間考査及び期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の授業中の態度や出席状況、問題や課題の提出状況により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	《数学I》 第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式(2次方程式) 【中間考査】
	5 ・ 6	第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式(2次不等式) 【期末考査】
第2学期	7 ・ 9	第4章 図形と計量 第1節 三角比 【中間考査】
	10 ・ 11	第2節 三角形への応用 第5章 データの分析 【期末考査】
第3学期	12 ・ 1	第5章 データの分析 《数学A》 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 【期末考査】
	2 ・ 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	3	看護科 コース	3	数学科

使用教科書等	出版社
新編数学A, Study-Upノート数学A, 独自教材	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能の習得を図り、事象を数学的に考察する能力を養う。 ・自学自習の習慣を身につける。 ・看護師国家試験対策
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期ごとに、学習内容の基本的事項について中間考査及び期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の授業中の態度や出席状況、問題や課題の提出状況により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	数学A 第2章 図形の性質 第1節平面図形 【中間考査】
	5 ・ 6	数学A 第3章 整数の性質 第1節約数と倍数 第2節ユークリッドの互除法 【期末考査】
第2学期	7 ・ 9	数学I・A総合演習 基礎数学演習 【中間考査】
	10 ・ 11	基礎数学演習 看護師国家試験対策 【期末考査】
第3学期	12 ・ 1 2 ・ 3	看護師国家試験対策 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理基礎	1	看護科 科	2	理科

使用教科書等	出版社
物理基礎	啓林館

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。ただし、3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 1. 速さと速度 2. 等速直線運動 3. 速度の合成 4. 相対速度 5. 加速度 6. 等加速度直線運動 7. 重力加速度と自由落下 8. 鉛直投射 9. 放物運動 【中間考査】
	5・6	第2章 力と運動 1. 力とは何だろうか 2. 力の合成と分解 3. 力の釣り合い 4. 作用・反作用 5. 慣性の法則 6. 運動の法則 7. 運動方程式の立て方 8. 摩擦を受ける運動 9. 圧力と浮力 10. 空気の抵抗 【期末考査】
第2学期	7・9	第3章 仕事とエネルギー 1. 仕事 2. 仕事の原理と仕事率 3. 運動エネルギー 4. 位置エネルギー 5. 力学的エネルギーの保存 6. 保存力と保存力以外の力 【中間考査】
	10・11	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と温度 2. 熱量と比熱 3. 熱量の保存 4. 物質の三態と分子の熱運動 5. 熱と仕事 6. 熱機関と不可逆変化 第3部 波 第1章 波の性質 1. 波の伝わり方 2. 波の表し方 3. 縦波と横波 4. 波の重ね合わせ 5. 波の反射 第2章 音 1. 音波の伝わり方 2. 共振・共鳴 3. 弦の振動 4. 気柱の振動 【期末考査】
第3学期	12・1	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 1. 静電気 2. 電流と電気抵抗 3. 様々な物質と抵抗率 4. 抵抗の接続 5. 電力と電力量 第2章 交流と電磁波 1. 電流と磁界 2. 電磁誘導 3. 交流の発生 4. 電気が家庭に届くまで 5. 電磁波
	2・3	第5部 物理と私たちの生活 1. エネルギーの変換と保存 2. エネルギーの利用 3. 放射線の性質 4. 原子力の利用 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物基礎	1	看護科 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
改訂 高等学校 生物基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への興味・関心を深め、生物学的に探求する能力と態度を育むとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(第3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況や学習に取り組む姿勢、ノートや副教材、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 細胞とエネルギー 【中間考査】
	5・6	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体の構造 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報とタンパク質の合成 【期末考査】
第2学期	7・9	第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き 第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 生体防御 【中間考査】
	10・11	第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 第2節 バイオームとその分布 【期末考査】
第3学期	12・1	第5章 生態系とその保全 第1章 生態系 第2章 生態系のバランスと保全 【期末考査】
	2・3	まとめ学習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	看護科 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高校 化学基礎 新訂版	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況、学習に取り組む姿勢や態度、副教材や課題などの提出物により総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 物質の構成 第1節 物質の探究 第2節 物質の構成粒子 【中間考査】
	5・6	第2章 物質と化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合 【期末考査】
第2学期	7・9	第3節 金属結合 第4節 粒子の結合と結晶 【中間考査】
	10・11	第3章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 第2節 酸と塩基 【期末考査】
第3学期	12・1	第3節 酸化還元反応 まとめ学習 【期末考査】
	2・3	問題演習、実験等

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	看護科 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂 生物基礎 / 高等学校 改訂 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行なう。	日常の授業への取り組みや授業態度、課題等の提出物によって評価を行なう。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第3章 生物の体内環境 3 生体防御 第4章 バイオームの多様性と分布 1 生物の多様性とバイオーム 2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布 【中間考査】
	5・6	第5章 生態系とその保全 1 生態系 2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全 第1章 細胞と分子 1 生体物質と細胞 【期末考査】
第2学期	7・9	2 細胞膜を介した物質の移動 3 生命現象とタンパク質 第2章 代謝 1 代謝とエネルギー代謝 2 同化 【中間考査】
	10・11	3 窒素同化 4 異化 5 呼吸 【期末考査】
第3学期	12・1 2・3	第3章 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とその発現 2 遺伝子の発現調節 3 バイオテクノロジー 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	3	看護科 コース	3	理科

使用教科書等	出版社
改訂 高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	身近な自然界のさまざまな事象を生物学的に理解することによって、そこから自主的に問題を発見し、生物学的な探求の過程を通して科学的な思考力、判断力、および表現力を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(第3学期は期末考査のみ実施)	日頃の出席状況や学習に取り組む姿勢や意欲、ノートや副教材、課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 細胞と分子 第2節 細胞膜の働きとタンパク質 第3節 さまざまなタンパク質の働き 【中間考査】 第2章 代謝 第1節 代謝とエネルギー
	5・6	第2節 炭酸同化 第3節 窒素同化 第4節 異化 第3章 遺伝情報の発現 第1節 遺伝情報とその発現 【期末考査】 第2節 遺伝子の発現調節
第2学期	7・9	第3節 バイオテクノロジー 第4章 生殖と発生 第1節 有性生殖における遺伝的多様性 第2節 動物の配偶子形成 第3節 動物の発生 第4節 動物の発生における形態形成のしくみ 第5節 植物の発生 【中間考査】
	10・11	第5章 生物の環境応答 第1節 植物の環境応答 第2節 動物の環境応答 第3節 動物の行動 第6章 生物群集と生態系 第1節 個体群と生物群集 第2節 生態系の物質生産 第3節 生態系と生物多様性 【期末考査】
第3学期	12・1	第7章 第1節 進化のしくみ 第2節 生物の起源と生物の変遷 第8章 第1節 生物の分類の変遷と系統 第2節 生物の系統関係 【期末考査】
	2・3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1(男)	看護科	3	保健体育科

使用教科書等	出 版 社
Active SPports 2020 [総合版]	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①(運動能力テスト) ◇体づくり運動 ◇高校生体操 ◆実技試験(高校生体操)
	5・6	◇創作ダンス 作品作り(中間発表) ◆実技試験(中間発表…文化祭)
第2学期	7・9	作品作り(最終発表) ◆実技試験(最終発表…文化祭) ◇スポーツテスト②(体力診断テスト) ◇武道:空手道 基本動作(手技:突き・受け・蹴り)
	10・11	組手(約束:一本組手) ◆実技試験(一本組手) ◇バレーボール 基本技術(パス・レシーブ・サーブ) ◆実技試験(パス・レシーブ・サーブ)
第3学期	12・1	◇体育理論 ◆期末考査
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	1(女)	看護科	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2020 [総合版]	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①(運動能力テスト) ◇体づくり運動 ◇高校生体操 ◆実技試験(高校生体操)
	5・6	◇創作ダンス 作品作り(中間発表) ◆実技試験(中間発表…文化祭)
第2学期	7・9	作品作り(最終発表) ◆実技試験(最終発表…文化祭) ◇スポーツテスト②(体力診断テスト) ◇武道:空手道 基本動作(手技:突き・受け・蹴り)
	10・11	組手(約束:一本組手) ◆実技試験(一本組手) ◇バレーボール 基本技術(パス・レシーブ・サーブ) ◆実技試験(パス・レシーブ・サーブ)
第3学期	12・1	◇バスケットボール 基本技術(パス・ドリブル・シュート) ◆実技試験(パス・ドリブル・シュート)
	2・3	◇実技理論(ダンス・武道・バレーボール・バスケットボール) ◇体育理論(1単元 運動・スポーツの文化的特徴) ◆期末考査(40点)

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2(男)	看護科 コース	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2019 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、身体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。3学期は中間考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト② 高校生体操テスト
	5・6	◇陸上競技 走り幅跳び 砲丸投げ ●実技テスト
第2学期	7・9	◇スポーツテスト②・体づくり運動 ◇ハンドボール パス・ジャンプシュート シュート 対人練習(1対1・3対2)・ゲーム ●実技試験
	10・11	◇バレーボール パス(アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) サーブ・スパイク ゲーム ●実技試験
第3学期	12・1	◇バスケットボール パス・ドリブル シュート(ランニングシュート・ジャンプシュート) 対人練習(1対1・3対2の攻防)・ゲーム ●実技試験
	2・3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2(女)	看護科 コース	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active Sports 2019 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、身体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。3学期は中間考査を実施。	計画的に、自ら進んで行うことで運動の楽しさや喜びを味わう。健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト② 高校生体操テスト
	5・6	◇陸上競技 (◇サッカー パス&コントロール トリプル 対人) 走り幅跳び 砲丸投げ ●実技テスト
第2学期	7・9	◇スポーツテスト②・体づくり運動 ◇ハンドボール パス・ジャンプシュート シュート 対人練習(1対1・3対2)・ゲーム ●実技試験
	10・11	◇バレーボール パス(アンダーハンドパス・オーバーハンドパス) サーブ・スパイク ゲーム ●実技試験
第3学期	12・1	◇バスケットボール パス・ドリブル シュート(ランニングシュート・ジャンプシュート) 対人練習(1対1・3対2の攻防)・ゲーム ●実技試験
	2・3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	3(女)	看護科	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2018 [総合版]	大修館出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①(運動能力テスト) ◇体づくり運動 ◆実技試験(高校生体操) ◇卓球 実技理論(ルール) ◆実技試験(サーブ・レシーブ・ラリー) ゲーム(チーム編成)シングル・ダブルス
	5・6	◇サッカー 実技理論(ルール) ◆実技試験(パス・ドリブル・シュート)
第2学期	7・9	ゲーム(チーム編成) ◇スポーツテスト②(体力診断テスト) ◇バレーボール 実技理論(ルール) ◆実技試験(パス・レシーブ・サーブ)
	10・11	ゲーム(チーム編成) ◇バスケットボール 実技理論(ルール) ◆実技試験(パス・ドリブル・シュート) ゲーム(チーム編成)
第3学期	12・1 2・3	◇実技理論(卓球・サッカー・バレーボール・バスケットボール) ◇体育理論(3単元 豊かなスポーツライフの設計) ◆期末考査(40点)

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
音楽Ⅰ	1	看護科 コース	2	芸術科

使用教科書等	出版社
改訂版 高校生の音楽1	音楽之友社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	音楽科の目標である「音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する」を踏まえ、基礎的な知識や技能の習得を通して、生涯にわたり音楽を愛好できる心を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	平常点(関心・意欲・態度)	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 音楽文化を尊重し、興味関心を高めているか。 意欲的・主体的に楽曲演奏に取り組んでいるか。 演奏活動への参加方法や態度。 研究ノートや学習プリント等への取り組みや提出状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現の工夫をしているか。 実技テストの内容 演奏発表の内容 学習プリント等の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 創造的な音楽表現の技能を身につけているか。 実技テストの内容 演奏発表の内容 学習プリント等の内容 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの音楽の特徴に対し理解を深め鑑賞できているか。 レポートの内容 演奏発表の内容 学習プリント等の内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	歌唱・・・校歌等、季節を歌う 器楽・・・リコーダー基礎 鑑賞・・・舞台芸術①(ミュージカル)について 楽典・・・音楽の基礎的な理論(音名、反復記号等)
	5・6	
第2学期	7・9	歌唱・・・季節、世界を歌う 器楽・・・リコーダーソロ 鑑賞・・・舞台芸術②(能)について 楽典・・・音程①
	10・11	
第3学期	12・1	歌唱・・・モーツァルトを歌う。 器楽・・・リコーダー2重奏 鑑賞・・・音楽史(バロック、古典、近現代)より代表的な作品 楽典・・・音程②
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術 I	1	看護科 コース	2	芸術科

使用教科書等	出版社
高校美術1(116-日文・美I-302)	日本文教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を楽しむ愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> 美術に対する興味・関心を高めているか。 意欲的・主体的に作品制作に取り組んでいるか。 提出した作品で評価 	<ul style="list-style-type: none"> 美術の良さや美しさを感じ取り、豊かに表現の工夫をしているか。 提出した作品で評価 	<ul style="list-style-type: none"> 創造的な美術表現をするための技能を身につけているか。 提出した作品で評価 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な美術作品や美術文化に対する理解を深めて鑑賞できているか。 レポート、作品鑑賞の内容で評価
評価割合	20%	30%	30%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> ミーティング 【絵画】……スケッチ 【デザイン】…絵文字
	5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> 【絵画】……スケッチ 【デザイン】…線の模様 【デザイン】…タイポグラフィを使ったポスター制作 【鑑賞】
第2学期	7 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> 【絵画】……スケッチ 【デザイン】…色の塗り方 【デザイン】…点描写
	10 ・ 11	<ul style="list-style-type: none"> 【絵画】…スケッチ 【工芸】…連続する模様 【鑑賞】
第3学期	12 ・ 1	<ul style="list-style-type: none"> 【絵画】……スケッチ 【工芸】……切り絵 【デザイン】…アートフレーム 【鑑賞】
	2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> 【絵画】…スケッチ

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語 I	1	看護科 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
Grove English Communication I New Edition	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①易しい英語の文章を理解する能力を養う。 ②それに必要な基本的文法及び構文を学習する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	Lesson 1 Omotenashi : The Spirit of Japan Lesson 2 Why Is That So?
	5 ・ 6	Lesson 3 The Bento Goes International Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship
第2学期	7 ・ 9	Lesson 5 The Impossible Is Possible Lesson 6 Eric Carle : How He Creates His Art
	10 ・ 11	Lesson 7 The Netherlands – Living with Water Lesson 8 Collective Intelligence
第3学期	12 ・ 1	Lesson 9 10 Billion Lesson 10 One Child , One Teacher , One Book and One Pen
	2 ・ 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	看護科 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
Grove English Communication II New Edition	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①易しい英語の文章を理解する能力を養う。 ②それに必要な基本的文法及び構文を学習する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストの でき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	Lesson 1 Mt. Fuji: The Pride of Japan
	5 ・ 6	Lesson 2 Yes, I do Climb Ahima Shiraishi
第2学期	7 ・ 9	Lesson 3 A Penguin Called Happy Feet
	10 ・ 11	Lesson 4 Warka Water
第3学期	12 ・ 1	Lesson 5 A Hidden History of Tomatoes
	2 ・ 3	Lesson 6 Icelan

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	3	看護科 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
Grove English Communication II New Edition	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①音読を通して、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の提出状況を総合的に判断して評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	Lesson 6 Iceland
	5 ・ 6	
第2学期	7 ・ 9	Lesson 7 Which Jam Would You Like? Lesson 8 Paper Building
	10 ・ 11	Lesson 9 Lunch Delivery in Mumbai Lesson 10 Saving Wildlife from Global Warming
第3学期	12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	2 Rickshaw Girl by Mitali Parkins

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
家庭基礎	1	看護科 コース	2	家庭科

使用教科書等	出版社
家庭基礎 自立・共生・創造	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に修得する。 2. 知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
趣旨・基準	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて関心を持ち、意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。授業態度で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その理解を目指して思考を深めている。提出物で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。実習で評価。	家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。定期考査で評価。
評価割合	約20%	約30%	約10%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第5章 食生活を作る 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 調理実習
	5・6	第5章 食生活を作る 食生活について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生 期末考査
第2学期	7・9	第2章 子どもと共に育つ 子どもの育つ力を知る 子どもとの触れ合いから学ぶ 親として共に育つ 第1章 自分らしい人生をつくる 青年期の課題 これからの家庭生活と社会
	10・11	第6章 衣生活をつくる 被服の役割を考える 期末考査
第3学期	12・1	第7章 住生活をつくる 住生活について考える 住生活の計画と選択
	2・3	第8章 経済生活を営む 職業生活を設計する 第4章 共に生き共に支える 社会保障の考え方 第3章 高齢社会を生きる これからの高齢社会 期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護情報処理	3	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
新版 看護情報処理	実教出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	情報機器の活用に向けた基礎能力の習得を目指す。 看護現場における情報システムの理解を深める。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
趣旨・基準	情報社会に関心を持ち、看護の問題を解決するために進んで情報および情報技術を活用しようとする。授業態度、出席状況で評価をする。	情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルをふまえた適切な判断をする。授業ノート、課題レポート等により評価をする。	情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに、情報を目的に応じて表現する。課題作品、発表により評価をする。	情報および情報技術を活用するための知識を身につけ、情報の意義や役割を理解している。各学期毎に実施する定期考査で評価をする。
評価割合	約20%	約20%	約20%	約40%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	1 高度情報通信社会とコンピュータ 2 高度情報通信社会への対応のしかた 課題・ルールとマナー 3 コンピュータの機能 ハードウェア ソフトウェア
	5・6	4 情報の処理 日本語ワードプロセッサ
第2学期	7・9	4 情報の処理 表計算ソフト 画像処理ソフト
	10・11	5 情報の収集・処理・発信 情報の収集 プレゼンテーションソフトを利用した情報の発信 電子メールソフトを利用した情報の受信・送信
第3学期	12・1 2・3	6 看護とコンピュータ 看護におけるコンピュータの活用 病院における看護情報システム 地域医療における看護情報ネットワーク 個人情報保護

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
人体と看護	1	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
人体と看護 新看護学1－人体のしくみと働き	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	授業態度、提出物
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	①人体の構成 ②細胞からみた人体 ③骨格系 中間考査
	5・6	③骨格系 ④筋系 ⑦血液系 期末考査
第2学期	7・9	⑧生体防御系 ⑨循環系 ⑩呼吸系 中間考査
	10・11	⑤神経系 ⑥感覚系 ⑪消化・吸収系 期末考査
第3学期	12・1	⑫内分泌系
	2・3	⑬腎尿系 ⑭生殖系 期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
基礎看護	1	看護科 コース	8	看護科

使用教科書等	出版社
基礎看護 新看護学6・7	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解する 2. 日常生活の援助等看護に関する基礎的、基本的な知識と技術を習得させる 3. 看護を適切に行う能力と態度を育てる
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記テスト 実技テスト	確認テスト、授業態度 レポート(課題) 実技練習状況
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	a: 1. 看護とは、2. 看護の対象としての人間 b: 1. 病床環境の調整、2. 衣生活 c: 第1章 患者と家族の理解 第4章 症状を示す患者の看護 (A全身症状を示す患者の看護、B呼吸器症状を示す患者の看護)
	5 ・ 6	4. 姿勢・体位と運動 期末テスト
第2学期	7 ・ 9	a: 3. 看護と保健・医療・福祉、4. 看護活動、5. 看護管理・看護研究 b: 3. 活動・運動、4. 身体の清潔、5. 食事、6排泄 c: 第2章 疾患の経過と患者の看護 第4章 症状を示す患者の看護 (C循環器症状を示す患者の看護、D消化器症状を示す患者の看護、 D腎・泌尿器症状を示す患者の看護)
	10 ・ 11	
第3学期	12 ・ 1	a: 6. 職業としての看護、7. 看護の変遷 b: 7. フィジカルアセスメント、8. 無菌法と院内感染の予防、9. 電法、10. 包帯法 11. 睡眠と休息、12. 学習・生産的な活動・レクリエーション c: 第3章 さまざまな場における看護 第4章 症状を示す患者の看護 (F脳・神経症状を示す患者の看護、G精神症状を示す患者の看護)
	2 ・ 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
人体と看護(微生物)	2	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
人体と看護 新看護学2 専門基礎【2】	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 ②生活行動や基本的な課題を発見し、看護の合理的、創造的に解決する能力を養う。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査	確認テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 微生物の基礎知識 中間考査
	5・6	第2章 細菌 期末考査
第2学期	7・9	第2章 細菌 中間考査
	10・11	第2章 細菌 第3章 ウィルス 期末考査
第3学期	12・1 2・3	第3章 ウィルス 第4章 真菌 第5章 原虫類 期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
疾病と看護(薬理・病理)	2	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
疾病と看護 新看護学2 専門基礎【2】	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p><病理>看護科の科目と関連づけて、疾病の予防や早期発見、病態と治療、回復の促進に関連する基礎的な知識を主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p><薬理>薬理の基礎的内容を、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、臨床実習での活用と関連づけて取り組む態度を養う。</p>
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査	確認テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	<病理>疾病のなりたちと病理 ー 基本的病変(先天異常・細胞・組織の障害と適応・修復 体液循環の異常
	5・6	<薬理>薬物に関する基礎知識 抗感染症薬 抗悪性腫瘍薬 免疫抑制薬
第2学期	7・9	<病理>疾病のなりたちと病理 ー 基本的病変(炎症・代謝障害)
	10・11	<薬理>末梢神経系に作用する薬物 中枢神経系に作用する薬物 抗アレルギー薬・抗炎症薬・解熱鎮痛薬・痛風治療薬 心臓・血管・血液系に作用する薬物
第3学期	12・1	<病理> 疾病のなりたちー基本的病変(腫瘍)
	2・3	<薬理> 呼吸器・消化器系に関する薬物 泌尿器・生殖器系に作用する薬物 物質代謝に関する薬物

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生活と看護(生活と健康)	2	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
看護基礎医学1	教育出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	人間を取り巻く環境要因と健康との関わりを取り上げ、健康を保持増進させる為には環境の保全が大切であることを学ぶと共に個人及び集団の健康水準に影響を及ぼす要因について理解する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	ペーパーテスト	確認テスト 課題レポート 授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	1. 生活環境と健康 1) 生態系の中の人間 2) 生活環境と健康 中間テスト
	5・6	2) 生活環境と健康 3) 環境因子と健康 4) 水 期末テスト
第2学期	7・9	5) 空気 6) 環境の管理 中間テスト
	10・11	7) 衣食住と健康 期末テスト
第3学期	12・1 2・3	2. 人々の生活と健康 1) 生活行動と健康 2) 社会の変化と人々の健康 3) 統計 期末テスト

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
基礎看護C	2	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
新看護学8 基礎看護[3] 臨床看護概論	医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。 2. 日常生活の援助等看護に関する基礎的、基本的な知識を習得させる。 3. 看護を適切に行う能力と態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記テスト(中間・期末)	確認テスト 授業態度 レポート(課題)
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 患者と家族の理解 第4章 症状を示す患者の看護 (A全身症状を示す患者の看護、B呼吸器症状を示す患者の看護)
	5・6	
第2学期	7・9	第2章 疾患の経過と患者の看護 第4章 症状を示す患者の看護 (C循環器症状を示す患者の看護、D消化器症状を示す患者の看護、 D腎・泌尿器症状を示す患者の看護)
	10・11	
第3学期	12・1	第3章 さまざまな場における看護 第4章 症状を示す患者の看護 (F脳・神経症状を示す患者の看護、G精神症状を示す患者の看護)
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(基礎)	2	看護科 コース	3	看護科

使用教科書等	出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	健康障害により日常生活が規制されている対象の身体的・精神的・社会的特徴について理解させ、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	臨床評価	実習記録評価
趣旨・基準	実習記録評価の手引きに沿って、臨床側の評価	実習記録評価の手引きに沿って、学校側の評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	
	5・6	
第2学期	7・9	
	10・11	実習要項に沿って病院で実習
第3学期	12・1	
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
成人看護	2	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
成人看護 成人看護[1] 成人看護総論/呼吸器/循環器/消化器 患者さんの情報収集ガイドブック 看護学生のための臨池実習ナビ	文部科学省 医学書院 メジカルフレンド 照林社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	成人期にある対象の生活、保健および疾病について理解させ、成人看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	授業態度、ノート等提出状況、小テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	臨実Ⅰa:成人看護総論 臨実Ⅰb:呼吸器疾患患者の看護 臨実Ⅱ:施設実習について 成人看護:循環器疾患患者の看護
	5・6	
第2学期	7・9	臨実Ⅰa:治療・処置を受ける患者の看護 臨実Ⅰb:呼吸器疾患患者の看護 臨実Ⅱ:施設実習、病院実習について 成人看護:循環器疾患患者の看護
	10・11	
第3学期	12・1	臨実Ⅰa:内科的治療・処置を受ける患者の看護 臨実Ⅰb:呼吸器・消化器疾患患者の看護 臨実Ⅱ:病院実習について 成人看護:循環器・消化器疾患患者の看護
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
老年看護	2	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
高等学校用 老年看護 新看護学13 老年看護	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴について理解し、日常生活の障害や疾患をもつ高齢者の援助を学ぶ。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間考査40点 期末考査40点	小テスト・課題提出状況・課題内容の状況
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	高齢者の理解 高齢者を取り巻く社会と社会システム 実習記録指導
	5 ・ 6	高齢者の暮らしを支える看護の視点 高齢者の暮らしを支える看護の実際 (生活環境・姿勢と動作・食生活と栄養・排泄・清潔・衣生活・運動と睡眠・休息) 実習記録指導
第2学期	7 ・ 9	高齢者が豊かに生きるために 高齢者の暮らしの場と看護
	10 ・ 11	治療・処置を受ける高齢者の看護
第3学期	12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	高齢者の病態・疾患と看護

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(老年)	2	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	高齢者の加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴について理解させ、高齢者に対する適切な看護を行うための能力と態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	臨床評価	実習記録評価
趣旨・基準	実習記録評価の手引きに沿って、臨床側の評価	実習記録評価の手引きに沿って、学校側の評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	
	5 ・ 6	
第2学期	7 ・ 9	実習要項に沿って介護老人福祉施設、介護老人保健施設で実習
	10 ・ 11	
第3学期	12 ・ 1	
	2 ・ 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
人体と看護(栄養)	3	看護 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
人体と看護 新看護学3 【専門看護】食生活と栄養	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	健康の保持増進のための栄養の生理、食習慣の基礎的な知識を主体的に学ぶことができる。 人体の構造と機能を関連づけて、栄養食事療法を系統・体系的に学び、基礎知識を理解することができる。
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査	確認小テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 食生活と栄養 第2章 栄養素の種類とはたらき 中間考査
	5・6	
第2学期	7・9	第3章 栄養素の消化・吸収・代謝 中間考査
	10・11	第4章 エネルギーの摂取と消費 第5章 病院食 期末考査
第3学期	12・1	第6章 栄養食事療法 第7章 特殊栄養食事療法 第8章 日本人の食事摂取基準 期末考査
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
疾病と看護(病態)	3	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
疾病と看護 成人看護[2]、成人看護[3]	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の過程に関する基礎的な知識を習得する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	筆記試験	単元終了後に確認テストを実施し、平均する。 授業態度、提出物なども加味する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	腎泌尿器疾患患者の看護
	5・6	
第2学期	7・9	腎泌尿器疾患患者の看護
	10・11	
第3学期	12・1	血液疾患患者の看護
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生活と看護(精神保健・保健医療)	3	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社
看護学入門 新看護学5 専門基礎【5】	メジカルフレンド社 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①よりよい看護の実践を目指して自ら学び、多様な人々の心身の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(精神保健) ②公衆衛生の基本的な内容と保健、医療、福祉の基本的な制度と関係する法規を看護活動と関連づけて、主体的、協働的に取り組む態度を養う。(保健医療)
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査	確認テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	①心の健康とは ②脳の発達 ③発達段階の課題(精神保健) 中間考査
	5・6	①健康と保健・医療・福祉について(保健医療) ②公衆衛生と保健のしくみ(A・B・C) 中間考査
第2学期	7・9	①心の働きと危機 ②精神保健福祉の変遷(精神保健) 中間考査
	10・11	①公衆衛生と保健のしくみ(D・E) ②医療のしくみ 期末考査
第3学期	12・1	①精神保健福祉対策(精神保健) 期末考査
	2・3	①社会保障と社会福祉のしくみ(保健医療) 期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(基礎)	3	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	看護の基礎的要素を基盤とした日常生活の援助活動が実践できる能力を養う。対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	病院評価(臨床指導者評価)	学校評価
趣旨・基準	評価基準に沿って評価	評価基準に沿って教員が評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	実習要項に沿って実習
	5 ・ 6	
第2学期	7 ・ 9	
	10 ・ 11	
第3学期	12 ・ 1	
	2 ・ 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
成人看護	3	看護科 コース	3	看護科

使用教科書等	出版社
成人看護(10)(11)(12) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>1 健康上の問題・疾患(脳神経、内分泌・代謝疾患、感覚器、運動器疾患)をもつ成人期にある対象の回復への援助の方法について理解できる。</p> <p>2 ゴードンの機能的健康パターンに基づいた看護過程の展開を行うための、基本的な知識を理解できる。</p>
---------	---

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査	小テスト・課題・提出物・授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	看護過程 皮膚疾患患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 脳・神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護
	5・6	看護過程 アレルギー・膠原病患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 脳・神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護
第2学期	7・9	看護過程 アレルギー・膠原病患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 脳・神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護
	10・11	看護過程 感染症患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 脳・神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護
第3学期	12・1 2・3	看護過程 目、耳鼻咽喉、歯・口腔疾患患者の看護 内分泌・代謝疾患患者の看護 脳・神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
母性看護	3	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
高等学校用 母子看護 新看護学14 母子看護	文部科学省 医学書院

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	母性・婦人科看護に関する知識と技術を習得させ、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間考査40点 期末考査40点	小テスト・課題提出状況・課題内容の状況
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	母性看護概論 中間考査
	5・6	ライフサイクル各期の特徴 母性の看護(妊娠の看護)
第2学期	7・9	母性の看護(分娩・産褥の看護) 中間考査
	10・11	妊娠・分娩・産褥の異常と看護 新生児期の看護 期末考査
第3学期	12・1	女性生殖器疾患患者の看護 期末考査
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
小児看護	3	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
母子看護、新看護学14 母子看護、小児の発達と看護	文部科学省 医学書院 ナーシング・グラフィカ

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	小児の特質、生活、保健及び疾病について理解し、小児の看護に関する知識と技術を習得するとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を身につける。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	1. 授業内容の理解 2. 中間考査40点・期末考査40点のペーパーテスト	1. 単元ごとの小テストを20点として評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1章 小児看護概論 A. 子どもとは B. 小児看護とは C. 小児看護を取り巻く環境 小児看護の基礎 A.子どもの成長・発達と生理
	5・6	中間考査
第2学期	7・9	第2章 小児看護の基礎 A. 母子保健の動向 B. 子どもの成長・発達と生理
	10・11	中間考査 C. 子どもの栄養 D.子どもの養護としつけ E. 疾病の予防と予防接種 期末考査
第3学期	12・1	F. 子どもの精神保と社会 G. 子どもと社会 小児看護の基礎技術 母子保健の動向 期末考査
	2・3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
精神看護	3	看護科 コース	1	看護科

使用教科書等	出版社
看護学入門 精神看護	メジカルフレンド社 文部科学省

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	精神看護についてよりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の心身の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	中間・期末考査	確認テスト
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容	
第1学期	4・5	①精神障害の原因 ②精神障害にかかわる個々の症状 ③精神障害の診察と検査	中間考査
	5・6		
第2学期	7・9	①薬物療法と看護 ②身体療法と看護 ③認知症状老年精神障害(アルツハイマー型認知症) ④統合失調症 ⑤気分(感情)障害	中間考査
	10・11	①反応性または心因性抑うつ精神病 ②神経症性障害 ③精神障害者の看護の基本 ④入院中の看護 ⑤入院中のリスクマネジメント	期末考査
第3学期	12・1 2・3	①主な症状と看護 (1～15)	期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
看護臨地実習(成人)	3	看護科 コース	2	看護科

使用教科書等	出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	成人期にある対象を総合的に理解し看護活動の基礎となる知識・技術・態度を習得する。
---------	--

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	病院評価(臨床指導者評価)	学校評価
趣旨・基準	評価基準に沿って評価	評価基準に沿って教員が評価
評価割合	40%	60%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ・ 5	実習要項に沿って実習
	5 ・ 6	
第2学期	7 ・ 9	
	10 ・ 11	
第3学期	12 ・ 1	
	2 ・ 3	